

平成30年7月  
豪雨関連

平成30年7月16日  
水管理・国土保全局防災課  
港湾局海岸・防災課  
都市局都市安全課

## 災害査定の手続きを効率化し、道路・河川等の迅速な復旧を支援 ～大規模災害時の災害査定効率ルールを初めて適用します～

国土交通省では、平成30年梅雨前線豪雨等(平成30年7月豪雨を含む)による被災施設について、災害査定に要する期間等を大幅に縮減する「大規模災害時の災害査定の効率化(簡素化)及び事前ルール」<sup>\*</sup>を初めて適用します。

豪雨災害に見舞われた地方自治体の災害復旧事業の災害査定の事務手続きを迅速にする効率化を実施します。

※ 平成29年1月13日から大規模災害発生時に被災自治体の災害査定に要する期間等を大幅に縮減するルールとして設けたもの。(別添参照)

### <対象区域>

北海道、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、浜松市、京都市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市、四日市港管理組合

※対象区域は、13日現在の被害報告によるものであり、上記以外の区域において必要に応じ個別に対応する。

### <災害査定の効率化(簡素化)>

#### ○書面による査定上限額の引き上げ(机上査定の拡大)により査定に要する時間や人員を大幅に縮減

- ・書面による査定上限額を通常300万円未満から引き上げる。

#### ○設計図書の簡素化により早期の災害査定を実施

- ・既存地図や航空写真、代表断面図を活用することで、測量・作図作業等を縮減する。
- ・土砂崩落等により被災箇所へ近寄れない現場に対し、航空写真等を用いることで、調査に要する時間を縮減する。

#### ○現地で決定できる災害復旧事業費の金額の引上げにより早期の災害復旧を実施

- ・現地で決定できる災害復旧事業費の金額を引き上げる。

水管理・国土保全局所管の施設に関する問合せ先  
水管理・国土保全局 防災課 齋藤(内線35752)、下條(内線35773)  
電話 代表:03-5253-8111、直通:03-5253-8458 FAX 03-5253-1607  
港湾局所管の施設に関する問合せ先  
港湾局 海岸・防災課 田中(内線46737)、安田(内線46725)  
電話 代表:03-5253-8111、直通:03-5253-8690 FAX 03-5253-1654  
都市局所管の施設に関する問合せ先  
都市局 都市安全課 青柳(内線32352)、鶴田(内線32353)  
電話 代表:03-5253-8111、直通:03-5253-8402 FAX 03-5253-1587

# 大規模災害時の災害査定効率化(簡素化)及び事前ルール化について

- 【背景】
- ・大規模災害が発生した際、**インフラの迅速な復旧が急務**
  - ・これまでの大規模災害では、災害査定をスピーディーかつ効率的に進めるため、**様々な「査定の効率化(簡素化)」を実施。**
  - ・しかしながら、個別の災害毎に効率化(簡素化)の内容を決めていたため**決定までに約1箇月を要していた。**
  - ・そのため、南海トラフ地震、首都直下地震、スーパー台風等の大規模災害に備え、より迅速に**災害査定の効率化(簡素化)の 具体的な内容を決定することが必要。**

## 【事前ルール化】

- ・**カテゴリーS**: 激甚災害(本激)に指定又は指定の事前公表がされた災害で、かつ、**緊急災害対策本部(政府)が設置された災害**  
(過去の事例: 東日本大震災(H23))
- ・**カテゴリーA**: 激甚災害(本激)に指定又は指定の事前公表がされた災害  
(過去の事例: 熊本地震(H28)、台風12号(H23)、新潟県中越地震(H16)、阪神淡路大震災(H7)などを含む14災害)
- **カテゴリーS・Aの災害の要件を満たした場合、以下の効率化(簡素化)を実施**

### 災害査定の手続きの効率化(簡素化)の主な内容

- ① **机上査定限度額の引上げ**(カテゴリーSは被害件数の概ね9割、カテゴリーAは被害件数の概ね7割となる金額まで引き上げる)  
(原則: 300万円) (参考: 過去の事例 カテゴリーS 5,000万円、カテゴリーA 1,000万円)  
: 会議室で書類のみで行う机上査定の対象限度額の引上げにより査定期間を短縮
- ② **採択保留額の引上げ**(カテゴリーSは採択保留件数の概ね9割、カテゴリーAは採択保留件数の概ね6割となる金額まで引き上げる)  
(原則: 4億円) (参考: 過去の事例 カテゴリーS 30億円、カテゴリーA 8億円)  
: 現地で決定できる災害復旧事業の金額の引上げにより早期着手が可能
- ③ **設計図書の簡素化**  
: 設計図書の作成において航空写真や標準的な断面図等の活用により測量・設計期間を短縮 など